

# 青梅市社会教育委員会 1月定例会会議録

日 時

令和8年1月20日 午後7時から午後7時40分まで

出席者

(委員)

宮野委員、白井委員、塚田委員、神山委員、市川委員、築地委員、  
吉村委員、鈴木委員、鶴岡委員、園田委員

(事務局)

平岡課長、柘植係長、橋本主任

## 1 開 会

(委員) 年が明けて初めての会、明けましておめでとうございます。

先日の二十歳を祝う会は、皆さん出席ありがとうございました。

今日は大寒で、とても寒くなった、体調管理に気をつけられたい。

(課長) 二十歳を祝う会の御出席ありがとうございました。

衆議院選挙が2月8日に決定し、青梅マラソンとは重ならず済んだ  
ものの、選挙管理委員会は準備に大変な様子。

本日もよろしくお祈いします。

## 2 報告事項

(1) 第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会について

(報告資料1)

ア 日 時 令和7年11月20日(木)～21日(金)

※うち11月20日(木)に参加

イ 場 所 関内ホール(神奈川県横浜市)

ウ 参加者

宮野	白井	塚田	神山	市川	築地	吉村	鈴木	鶴岡	園田
—	—	—	—	○	—	○	—	—	—

随行 柘植、橋本

(事務局説明)

(委員) 参加委員から感想をいただきたい。

(委員) 報告資料をまとめた。

記念講演は東京パラリンピックの開会式のプロデューサーを務めた方で、健常者であることを前提としたシステムは再考の時期にきているのではないかと、という趣旨であった。続いてのシンポジウム

では、社会教育委員としてどうあるべきか、自らの活動を元に参加者にも問いかけるような内容であった。

(委員) 歓迎セレモニーは、中華街の学院の生徒が演じる中華獅子舞が行なわれ、演武のダイナミックさもさることながら、文化的に他国との共存を図っていることを示している点でも良かった。

記念講演は、みずからハンディキャップを負いながらも、パラリンピック開会式のプロデューサーを務めるなど、いきいきと活動しているのが良かった。シンポジウムでは3人のシンポジストとコーディネーターが「すべてのひとが学び続けられる社会をつくるために社会教育ができること」をテーマに参加者にできることを問いかけるようなシンポジウムとなった。閉会行事では参加者もともに合唱することで気持ちを一つにするような演出もあった。

(2) 令和7年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会・社会教員委員研修会について (報告資料2)

ア 日 時 令和7年12月13日(土)

午後1時30分から午後4時15分まで

イ 場 所 小金井 宮地楽器ホール 3階大ホール

ウ 内 容 式典、各ブロック研修会実施報告、講演

エ 出席者

宮野	白井	塚田	神山	市川	築地	吉村	鈴木	鶴岡	園田
—	—	—	—	—	—	○	—	—	—

随行 橋本

(事務局説明)

(委員) 参加委員から感想をいただきたい。

(委員) ブロック研修会の報告が中心であったが、ブロックごとにいろいろな組み立て方があり、それが地域性を含めてどうすれば参加者に効果的な研修会になるかをよく考えて開催していることを面白く感じた。

この大会に限らず、研修に参加することの意義・感想は、それぞれの委員が地域の課題を踏まえて活動していると実感できたこと、それらの人との交流の必要性を感じたこと、社会教育法の趣旨が具体的に学べたこと、活動を支えていく人たちの輪を広げていく必要性を強く感じたこと、などを挙げたい。

(委員) ブロック研修は各地域ごとの特色が見られて面白いと思うので、今後も継続してほしいと思う。

(3) 「令和8年成人の日 青梅市二十歳を祝う会」について（報告資料3）

（事務局説明）今年は出席率が7割に回復した。今回特筆することは、家族席の来場者が増えていること、警察の協力について配備がだるま市と重なっているにもかかわらず人員も車両も多く割り当てられ、路上の取り締まり等行なっていただき大変助かった。

（委員）各委員から感想をいただきたい。

（委員）対象者の減が著しいと感じる、この分では数年中に千人を割るかもしれない、しかし出席率は上がって良かった。最初はざわざわしていたが、始まったとたん静かになった。また、保護者の数が増えていると感じた。

（委員）トラブル無く良かったと思うと同時に、対象者の参加意識について考えた。この世代はコロナの影響の時代で、コミュニケーション能力低下から今後出席率下がるのではと懸念している。われわれが整備しなければならない部分を感じた。

（委員）参加者は静かに聞いていた。会場外で改造車両が走り回っていることがあったがエスカレートしなくて良かった。

（委員）最初に感じたのは、この子たちはコロナの影響の世代なんだと思った。ビデオレターは良かった。市長の挨拶も自分の言葉で話していて良かった。

（委員）入口に幟旗があって、元気のある子もいるんだと思った。式典では一部私語等あったり、ちょっとがたがたしていたように感じた。タイムカプセルを渡す時間に過去に関わった子を探したが、18人いるはずのところ半数しか会えなくて、特に男子が少なく残念だった。

（委員）今回は以前関わった子が多く出席している会だった。途中退席の子が誘っても残る子も見受けられた。コロナの世代なので、行事が少なかったからこの会を大事に思っているのかと思った。乳幼児連れの来場者について、今年は静かなのでいないのかと思っていたら、終わって会場の外に出たら多かった。集まってもおだやかなのかと思った。

（委員）市長のあいさつ、毎年ぶれずにいて素晴らしいと思う。出席率については、7割でも自分は高いとは思わない、絶対数が少なくなっていくので、会場の空間が広く感じる。また、この先の世代は「二十歳を祝う会」をどのような位置づけにするかと考えると、毎年行なう内容は変わらなくても保護者の出席が増えるなど環境が変わる部分がある、9割くらいの出席率で来るのが当たり前となったら位置づけも変わるのではないか。例えば保護者席から壇上が遠いので、TCNで画面に映してもらおうなどの工夫ができないだろうか。

(委員) この会の意義として、子どもたちが顔を合わせる場として機能していてとても良いと感じる。コロナの時代のこの子たちはどのように考えて過ごしてきたのかと考える、それを支えた学校や先生方も頑張ってきたと実感する。以前、戦時中で修学旅行に行けなかった人たちが大人になって改めて修学旅行を計画して行っている、との話を聞いたことがあるが、コロナで行けなかったこの子たちも同様なことをするのか、と考えることもあった。

(委員) 資料を見て、また実際の出席者を見て子どもが減っていると実感した。出席者は穏やかになったと思う。たまたま過去に関わった子を見つけて元気な姿を見られたので良かった。コロナで行事を制限された子なんだと実感し、先日大学の先生と話した内容で、この年代の子は集まることについて、機会が無かったので習慣とならず面倒と思っている人が多いとのことだった。

(委員) 参加するたびに思うのだが、若い世代の子ははつらつとしていていいと思っている。今年は女性も元気が無いわけではないが抑えめだと思った、コロナの影響の世代なのかと思った。自分が退職したときは東日本大震災の影響で行事が無くて寂しく思った。この子たちも似たようなところがあるのかと思うが、どこかで人とふれあってほしいと思う。出席率について7割は他の自治体と比べてとても高いと思う、出席者・運営皆さまが頑張った成果と思う。

(委員) 先日のニュースで見たが、都内のある区では外国籍の該当者が半数前後いて、服装の費用の補助があった(※)とのことだが、青梅市ではそのような補助は無いのか。

(課長) 青梅市、および近隣市町には無い。ここ数年二十歳を祝う会の内容の変更は無いが、出席者が少なくなっているのは感じるという声があった。出席率は東京都の中では青梅市はかなり高く、10年ほど前は70%台後半で、コロナで中断があり、昨年60%台に減ったのが7割に戻りこれは良かった。内容等改善すべき点があれば見直していく予定、今年は特別な宣伝は行なわなかったが、幼児室を準備した。

(委員) やはり壇上の様子を大画面で映せるといいと思う。

※事務局で後日確認したが、費用の補助の事実なし。地場産業(染色)の振興を目的とした晴着の無料貸出のことと思われる。

(4) 生涯学習事業実施予定・結果 (報告資料4)

1月7日教育委員会提出資料

(事務局説明)

(5) その他

(委員) 1月16日に第3回スポーツ審議会が行なわれた。

報告 5 件、諮問 1 件

### 3 協議事項

- (1) 青梅市社会教育委員会議 1 1 月定例会会議録について (協議資料 1)  
事前に委員に送付した (案) から変更なしで承認
- (2) 令和 7 年度社会教育委員活動記録作成にかかる原稿の提出について  
(協議資料 2)  
(事務局説明) 上部団体である都市社連協に、研修会への参加人数等の報告を行なう。事務局作成内容で承認。
- (3) その他  
特になし

### 4 その他

配布物

- ・生涯学習だより
- ・青梅市こども読書活動推進事業報告書
- ・とうきょうの地域教育

次回定例会 3 月 1 7 日 (火) 午後 7 時～ 2 0 1 会議室